

平成25年9月19日

IBC岩手放送 震災復興キャンペーンCM 日本民間放送連盟賞 ラジオ・テレビW受賞 ～ラジオCM・テレビCM、いずれも優秀賞～

東日本大震災から2年半。この間IBC岩手放送が継続して行っている放送活動が改めて高い評価を受けました。

平成25年度日本民間放送連盟賞のCM部門で、「忘れない3.11」をテーマに放送を続けているIBCのラジオキャンペーンCMと、テレビキャンペーンCMが、いずれも優秀賞を受賞しました。

「忘れない3.11」は、東日本大震災の被害から立ち上がろうと、前を向いて頑張っている人たちを応援しているIBCの公共キャンペーン。ラジオとテレビ共通のテーマで沿岸被災地の人たちの復興にかける思いをスポットCMとして紹介しています。

～ 受賞作品 ～

 **日本民間放送連盟賞 CM部門 ラジオCM【優秀賞】**
公共キャンペーン・スポット「忘れない3.11～小川旅館篇～」(150秒)

 **日本民間放送連盟賞 CM部門 テレビCM【優秀賞】**
公共キャンペーン・スポット「忘れない3.11～わたしの一言～」(60秒)

上記2作品は、いずれも東日本大震災以降、IBC岩手放送が被災地の復興に向け「忘れない3.11」を合言葉に取り組んでいる放送活動の一環です。
IBCでは今後も被災地の放送局として、県民・被災地の目線で地域に寄り添った放送を続け、全国に向け被災地・岩手の情報や、復興への思いを発信してまいります。

*日本民間放送連盟賞の表彰は11月6日(水)に開催される民間放送全国大会席上で行われます。
*この件に関するお問い合わせ先：IBC岩手放送テレビ編成部 相原 019(623)3143

受賞作品紹介

日本民間放送連盟賞 CM部門 ラジオCM 【優秀賞】 公共キャンペーン・スポット「忘れない3.11～小川旅館篇～」

「忘れない」ということは、いつまでも思い続けること、通じ合うこと、支えあうこと、そして繋げること。

津波で壊滅的な被害を受けた大槌町の老舗旅館の女将小川京子さんは、さまざまな方たちの応援を受けて、やっと昨年12月3日に元あった場所とは別の場所で旅館を再開します。しかし女将の最終の願いは、元あった場所で旅館を再開し、かつての賑わいが戻ること。

多くの復興者が口にする「点での復興」ではなく「面での復興」。この場所に生まれ育った誇りを途切れることなく奮闘する姿は、被災地復興だけでなく困難に立ち向かう人達へのエールでもあります。



再開した「小川旅館“絆館”」を切り盛りする女将小川京子さん

日本民間放送連盟賞 CM部門 テレビCM 【優秀賞】 公共キャンペーン・スポット「忘れない3.11～わたしの一言～」



陸前高田市の仮設住宅に暮らす菊地樹理さん一家。様々な支援を受け、大好きなママさんバレーに打ち込む。これまでの感謝を込めての一言。「ありがとう」。

“県民の伝えたい思い”を手書きの文字と共に、それぞれ一言で表現してもらうキャンペーン。漁師や学生、ママさんや仮設住宅に暮らすお婆ちゃん。それぞれの“わたし”が「再生」「感謝」など、自らの思いを発信してきました。

キャンペーンソングは、震災で妹と甥を亡くした岩手県釜石出身で作曲家の佐々木裕文さんが震災後に作成したオリジナル曲「WING～巡る季節（とき）を感じて～」。『ゆっくりでも歩み出すよ、一歩ずつ♪』の歌声は、震災で内陸避難を余儀なくされた生徒も通う岩手県二戸市の仁左平中学校の皆さん。

このキャンペーンは、IBC岩手放送と県民が一緒に作りあげ、共に発信していくメッセージ。亡くなった方々、今を生きる人たち、そして未来への思いを込めた一言、一言です。

*このテレビキャンペーンスポット「忘れない3.11～わたしの一言～」は、IBC公式YouTubeチャンネル「6BOX」 <http://www.ibt.co.jp/6box/> を通じ、全編を全国に向けて発信しています。